

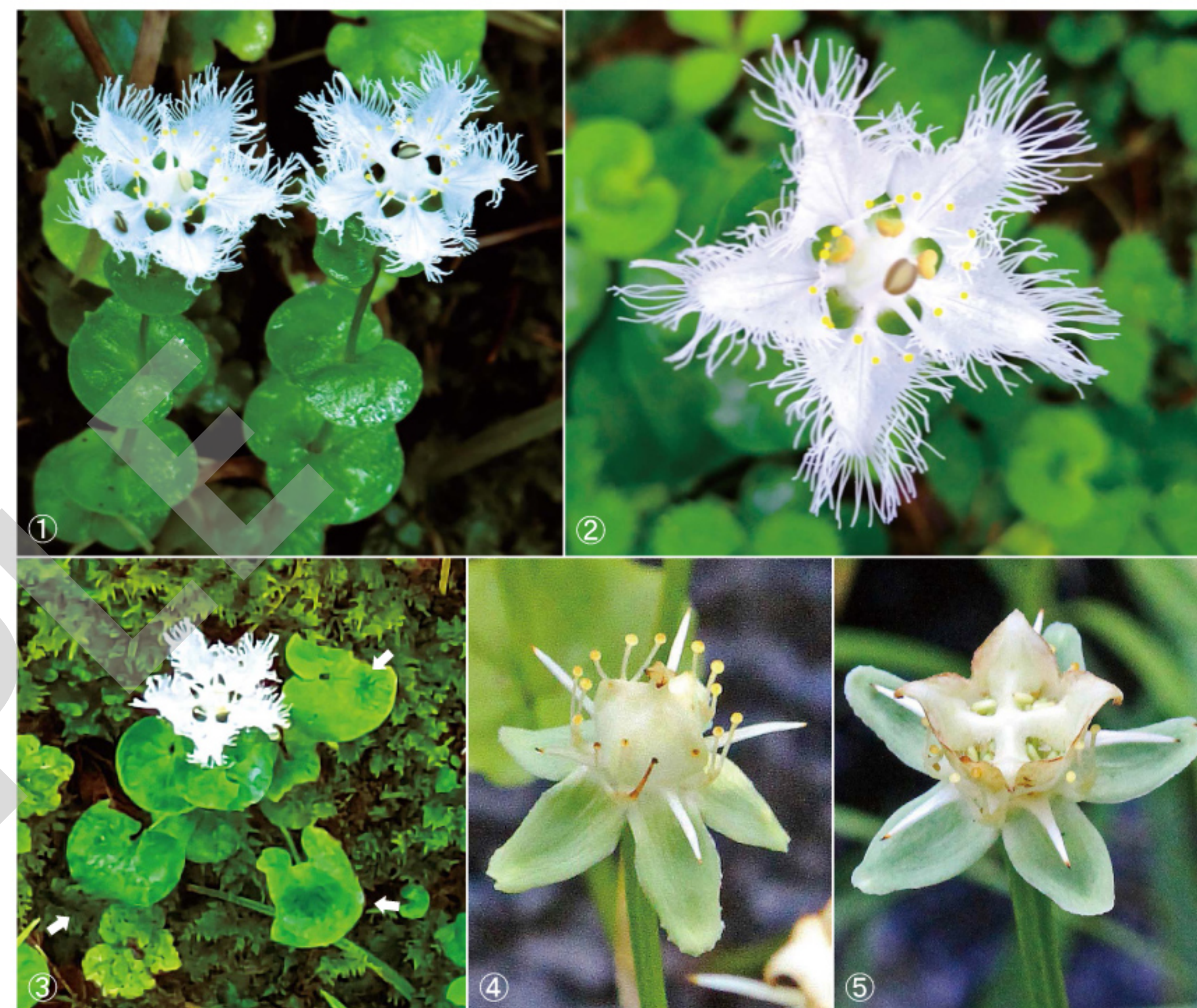
262 **リュウキンカ** *Caltha palustris* L. var. *nipponica* H.Hara 1952 (キンポウゲ科リュウキンカ属)

図：① アサザと混生するリュウキンカ 茨城県つくば市 2012.4.21. / ② 花 茨城 2013.10.30. / ③ 若い果序 茨城 2013.10.30. / ④ 成熟した果序 茨城 2012.5.7. / ⑤ 果実裂開と種子散布 茨城 2014.5.8.

【生育形】抽水植物：【生活形】多年生：【生態】浅い沼地。山地の湿原に目立つ：【形態】平地では2月、根茎の越冬芽が出芽して3月には葉が勢よく展開。葉は根生し成葉の葉身は円心形でふちに波状の鈍鋸歯がある(図①)。4月上旬、長い花茎が直立し、その先に数個の花が上向きについて開花。黄色い花弁状の萼片が5~6、雄蕊は多数、雌蕊は8個ほど(図②)。果実は袋果が放射状に並びバナナの房のような形になり(図③④)、成熟すると裂開して腎臓形の種子が多数こぼれ落ちる(図⑤)。秋、地上部は枯れて消えるが、地中では黒く太短い根茎の先に越冬芽がつく。散布された種子は春に発芽し、着床すれば実生が育つ：【生活史】根茎と種子で越冬する：【送粉様式/花期】虫媒/4月：【種子散布様式】水散布：【栄養繁殖様式】根茎：【原記載】J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, sect. 3, Bot. 6(2): 50, in adnot. (1952)：【分布】(国内)北海道~九州 / (世界)朝鮮・中国・東シベリア：【分布特性】在来種：【絶滅危惧種ランク】北海道(2) / 茨城(1) / 栃木(3) / 神奈川(2) / 新潟(3) / 福井(7) / 山梨(2) / 滋賀(2) / 京都(2) / 大阪(1) / 鳥取(3) / 島根(3) / 岡山(4) / 福岡(4) / 熊本(3) / 大分(2)：【語源】花茎が立ち、金色の花をつけることから立金花(りゅうきんか)という：【漢名】驢蹄草は大陸産の var. *palustris*。 [山田寛治]

284 **シラヒゲソウ** *Parnassia foliosa* Hook.f. et Thomson var. *foliosa* 1857

(ニシキギ科ウメバチソウ属)



図：① 花期の個体 長野 2023.8.20. / ② 花は白色、5数性の両性花で花弁の縁辺部がヒゲのように糸状に細く切れる 長野 2023.8.20. / ③ 全形(白矢印は柄のある根出葉) 長野 2023.8.20. / ④ 蒴果 宮田 / ⑤ 裂開した蒴果(中に種子が見える) 宮田

【生育形】湿生植物：【生活形】多年生：【生態】山地の湿地や小川の水辺：【形態】根茎は短く直立する。根出葉は長い柄があり、3~8個束生し、掌状脈がある(図③)。夏に高さ15~30 cmほどの花茎を直立し、4~8個の茎葉と先端に1花をつける。茎葉は無柄で多少茎を抱く、葉身は広卵形で基部は深い心形、先端は円形で凸端に終わり、長さ幅ともに1.5~4 cm(図①)。花は白色、径2.5 cmほど(図②)。萼裂片は卵形、長さ5 mmほどで、鈍頭、花期には平開する。花弁は卵形で、長さ9~12 mm、縁は糸状に深く切れ込み、基部は急に細まり、爪があり、花期には斜開または平開する。雄蕊は花弁よりも短く花期には開出し、葯は長円形で灰白色。仮雄蕊は花時に斜上し、長さ3 mmほど、先端は3深裂し、先端に小球状の黄色い腺体をつける(図②)。雌蕊は雄蕊よりも短い。子房は卵球形で4室からなる。花柱は短く、柱頭は4裂する。蒴果は長さ6 mmほど(図④)。種子は長さ約1 mm(図⑤)。2n = 18：【生活史】有性生殖を行って世代交代する：【送粉様式/花期】虫媒/8~9月：【種子散布様式】重力散布：【原記載】J. Proc. Linn. Soc., Bot. 2: 79 (1857)：【分布】本州、四国、九州 / 中国西部、インド北部：【分布特性】在来種：【絶滅危惧種ランク】福島(5) / 栃木(2) / 群馬(2) / 埼玉(2) / 東京(2) / 山梨(2) / 長野(3) / 岐阜(4) / 静岡(3) / 愛知(2) / 三重(2) / 滋賀(2) / 京都(7) / 奈良(2) / 島根(3) / 徳島(2) / 香川(1) / 愛媛(3) / 高知(3) / 熊本(4) / 大分(3) / 宮崎(1)：【語源】白鬚草(しらひげそう)は白色の花弁が糸状に切れ込んだ様子が髭に似ることに由来：【近縁種】オオシラヒゲソウ *P. foliosa* var. *japonica* (Nakai) Ohwi は全体に大型で、根出葉は長さ幅ともに4~6 cm、茎葉は2~4枚、花は径3.5 cmほどでありシラヒゲソウと区別できる。 [森 晃・宮田昌彦]